

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

November
ISSUE



November, 2022
Volume 128

「いってよかった いかせてよかった DIA」

「いってよかった、いかせてよかったと言ってもらえる学校をつくりましょう。」

これは私が以前勤めていたマレーシア、ジョホール日本人学校の当時の校長先生からいただいた言葉です。日本人学校は公立の学校ですが、現地校やインターナショナル小学校などの選択肢がある中でも、保護者の方に我が子を入学させたいと思ってもらえる、質の高く愛情深い学校をつくっていきましょう。そんな思いが込められていました。私立小学校である同志社国際学院初等部も同じく、魅力ある学校づくりに邁進していかなければならないのは自明のことです。

さて DIA の魅力というのは何でしょうか。本校を受験された保護者に何うと大きく3つに大別されるようです。

一つは日英バイリンガル校であるということ。もう一つは探究型学習に学びのベースがあること。そして関西屈指の名門校、同志社大学の附属校であるということです。他にも DIA には様々な特色がありますが、私が思う最も大事なことは、日々子ども達と接している我々教職員の子ども達への愛情と誠実な態度、教育への熱い前向きな思いです。いくらカリキュラムが素晴らしくても、私たち教員一人ひとりが子ども達のロールモデルとして、よき人生の先輩として、そこにいなければ魅力的な学校とは言えません。

本校のホームページには、現在 DIA にお子さんをお通わせている保護者の方の志望動機や現在までの成長についての思いが掲載されています。その中にはとても嬉しい言葉が並んでいます。

「子供が毎日楽しく学校に通っています。」

「こんな学校に行きたかった！私達がそう思える学校が DIA だと思います。」

「横並びでなく子供の個性を大切にしてくれている。」また、春にいくつかの幼稚園や学習塾に本校の紹介をしに行った際に、志願者の保護者の方から聞いたお話の中で、

「この子が生まれた時からずっと DIA に入学させたいと思っていました。」

「DIA の載っている教育雑誌を海外まで送ってもらい、魅力を感じて学校訪問をしに来ました。」

「今朝、新幹線で東京から話を聞きに来きました。」

すでに上のお子さんが通われている方からも、

「6年間の探究の学習がこのように計画されているという話を改めて聞いて、とても勉強になりました。」といった感想いただきました。

DIA で働けること、DIA のラーニングコミュニティーの一員であることを教員として大変喜ばしく思います。

今年度も後半に入りました。先月、来年度入学する1年生に合格通知表を発送しました。6年生は1月のエキシビションのアクションに向けて余念がありません。

「教育こそ文明の源である」という思いを抱いて帰国した校祖新島襄の信念を受けつぎ、子ども達や保護者の方の多くの期待を背負っていることを心に留め、「いってよかった、いかせてよかった」と思ってもらえる、そんな学校をつくっていきたいです。

教頭 西村 孝次



キリスト教 教育テーマ 11月：感謝 November: Gratitude

「あなたがたにもたらされたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたの間でも、神の恵みを聞いて真に理解した日から、実を結んで成長しています。」

コロサイの信徒への手紙 1章6節 (聖書協会共同訳)

9月27日から30日の4日間、6年生の修学旅行について広島と熊本を訪れました。いろいろな場所を訪れる中で子ども達と一緒に新鮮な気持ちで学んでいくことが出来て、大変なこともありましたが振り返れば感謝することの多い旅でした。

いろいろな訪問先の中で、今回は特に「熊本草葉町教会」のことをご報告したいと思います。この教会の創立者は「海老名弾正」という人で、世にいう「熊本バンド」のメンバーであり、後に同志社の第8代目総長となった人物です。藩校であった熊本洋学校が廃校になり、L. L. Janes 教師の影響でキリスト教に感化された青年たちは行き場を失って、結果、大挙して同志社英学校に入学してきました。開校間もない同志社の地盤をしっかりと踏み固めていったのは彼ら「熊本バンド」の功績であると言っても過言ではありません。

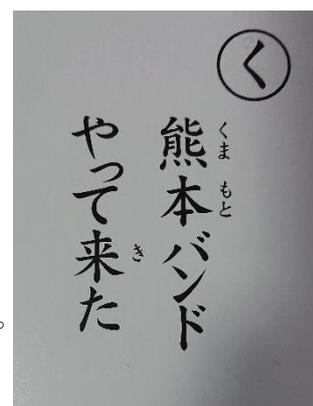
2016年に熊本地震が起これ、この由緒ある教会も被災しました。そこで当時、本校は「おにぎり献金」の一部を急遽義援金として、2年間教会に送金しておりました(筆者、この辺りの事情を2016年度6月号の「The Learner」記事に掲載したことがあります)。その際、当時の児童らに教会の方々への励ましのお手紙を書いてもらい、別便でお送りしたのですが、何年も昔のことゆえ、その事実は記憶の片隅に追いやられていました。

しかしながら今回の訪問で「熊本バンドと同志社」について講演して下さった教会員の岩井善太氏(同志社高校ご卒業)は、最後に思いがけないスライドを見せて下さったのです。そこに書かれていたことを、そのままご紹介致します。

感謝！



2016年4月16日の熊本大地震の時
同志社国際学院初等部の皆さんから、熊本草葉町教会に
生徒さん一人一人が書いたお見舞いのお手紙
と
義援金
をおくっていただきました。教会員一同お手紙には大変
励まされ、義援金は、この教会堂修復に使わせて頂きました。
本当にありがとうございました。



実際にお手紙を書いた児童らは既に卒業してしまっていますが、熊本バンドを継承する教会員のお一人がこのようにお覚えくださり、後輩たちに感謝の言葉を伝えて下さったことは、同志社に繋がる私たちが世代を超えて温かい絆を紡いでいる証しであると、痛く感激した次第でした。(左右画像：法人同志社制作「同志社・新島かるた」より)

Christian Education Committee チャプレン 石川 眞弓

<お知らせ>

- 11月のおにぎり献金は、11月8日(火)です。感染症予防のため、献金は小袋に入れてお子様にお持たせください。ご協力をよろしくお願ひ致します。
- 11月4日(金)は、「収穫感謝礼拝」です。お子様に米一合を、お持たせください。礼拝で感謝して捧げた後、生活困窮者のために働いておられる施設へ寄付します。寄付先：「京都寄り添いネット」、大阪釜ヶ崎「いこいの家」
- 11月25日(金)は、点灯式礼拝です。礼拝・点灯式共に、児童のみの参加となります。

私ってどんな人だろう？

「自分ってどんな人だろう？」大人であれば一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。そして、その質問が頭に出てくるときは、進学や就職、異国の地に行く・・・など自分や周りの環境が大きく変わる時や、今までいた環境に慣れきって新しいことを起こしたい、次のステップに進みたい時・・・だったりしませんか？

今、3年生では「Who We Are」をテーマとして探究を進めています。Identity を辞書で引くと「自分らしさ」や「Different from others」とありました。自分と他者の関係を客観的に見て、考えるのは大人でも難しいです。そこで、自分って何が得意？どんなことが好き？どんな人に支えられ、生活し、将来何になろうとしているかな？・・・とポイントを絞りながら自分の Identity、「自分とは何者か」を考えています。

そうした中で、自分を取り巻く環境、今いる場所は自分の Identity を知る上で大きな影響を与えると考えました。今、私たちのいる場所は「同志社」。そこで、「同志社」と創設者である「新島襄」について学ぼうと、同志社墓地と同志社大学今出川キャンパスへ校外学習に出かけました。

若王子寺から同志社墓地への山登りは思ったよりも大変でした。どうしてこんなところにお墓があるのだろうか？と考えながら登る3年生です。そして、同志社大学では、普段はなかなか入れない神学館のチャペルに入れていただきました。キリスト教を広めようと努めた新島襄に思いを馳せ宗教の先生からのお話を聞きました。

「同志社大学」が設立された歴史をたどっていくと、決して楽な道ばかりではありません。校外学習の中で訪れた同志社大学ハリス理化学館の「自責の杖」を見ながら、新島襄先生の熱い思いに触れました。そして国禁を犯し、アメリカに渡った新島襄先生のことを「勇敢な人」と答える姿もありました。そうした新島襄の軌跡をたどりながら、「同志社人」としての Identity を身に付けてきている3年生です。

今の3年生が大人になるまでに、「わたしは何者なのか」と考える時間がきっと訪れることだと思います。そうした時に、「新島襄」の生き方や、「同志社人」としての学びが助けとなって、「自分とは何者か」と知るきっかけとなってほしいと願っています。





からのおしらせ

SDGs 17 の目標

みなさんは SDGs についてどれだけのことを知っていますか。最近、テレビや新聞、ネットニュースの記事でよく見かけます。「聞いたことはある。」「教科書に載っていた気がする。」「興味をもち始めたけれどよくわかっていない。」という人も多いのではないのでしょうか。今月は、「SDGs のきほん 未来のための 17 の目標」シリーズから「入門：SDGs ってなに?」と「目標 1 貧困」を紹介します。



SDGs のきほん 未来のための 17 の目標

入門：SDGs ってなに? (著：稲葉 茂勝 出版社：ポプラ社)



SDGs は Sustainable Development Goals の略で、日本語で「持続可能な開発目標」です。簡単にいうと、「世界中にある環境問題・貧困・人権問題などの課題を世界中の人々で 2030 年までに解決しよう。」という目標なのです。SDGs で掲げられている

目標は 17 個あります。この本では「SDGs って何なのか。」「なぜ今 SDGs が必要なのか。」など、これから SDGs について知ろうと思っている人にお勧めの一冊です。

SDGs のきほん 未来のための 17 の目標

目標 1 貧困 (著：稲葉 茂勝 出版社：ポプラ社)

この本では、世界の貧困の現状と原因など、必要な基礎知識を知ることができます。「食べ物を手に入れるだけで精一杯」「男女差別によって働く機会が少ない。」など貧困に苦しむ人が世界には少なくありません。現状を理解し、世界でできる貧困支援や私たちができることを考えるきっかけを与えてくれる本です。このシリーズ本は、低学年から読める絵本ページがあり、また、世界のデータもたくさん載っていたり、分かりやすい解説があったりして大人でも楽しく読むことができます。みなさんも、まずは SDGs を知ることから始めませんか。



11月の主な行事・予定

1	火	避難訓練/ Evacuation Fire Drill
2	水	委員会活動/ Student Committees
3	木	文化の日/ Culture Day
4	金	PYP プラン (午前授業) 収穫感謝祭/ Thanksgiving Worship Service
5	土	きずな祭 Kizuna Festival
6	日	
7	月	Unit 4 (Week 5)
8	火	避難訓練(予備) / Evacuation Fire Drill
9	水	クラブ活動 Club Activity
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	Buffer Week
15	火	
16	水	クラブ活動 Club Activity
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	Unit 5 (Week 1)
22	火	
23	水	勤労感謝の日/ Labor Thanksgiving Day
24	木	
25	金	点灯式/ The Lighting Ceremony
26	土	
27	日	
28	月	Unit 5 (Week 2)
29	火	創立記念日/ Doshisha Foundation Day
30	水	クラブ活動 Club Activity/創立記念礼拝 Foundation Worship Service

12月の主な行事・予定

2	クリスマス礼拝
8~14	SPT カンファレンス (午前授業)
16	終業礼拝 (午前授業)